

～「近畿地方メディア連携協議会（第9回）勉強会」を開催しました～

近畿地方整備局 河川部 水災害予報センター

○近畿地方整備局、大阪管区気象台、各メディア関係者で構成する「近畿地方メディア連携協議会」での取組の一つとして、「近畿地方メディア連携協議会（第9回）勉強会」を開催し、話題提供や意見交換を行いました。

近畿地方メディア連携協議会 勉強会の概要

- 日時: 令和6年7月31日(水) 15:00～17:00
- 開催形式: 対面・Web(Teams)併用開催
- 場所: 大手前合同庁舎(近畿地方整備局)
- 出席者: 46名 うちメディア出席団体: 12社(計23名)

株式会社朝日新聞社／朝日放送テレビ株式会社／大阪放送株式会社／株式会社サンテレビジョン／株式会社奈良新聞社／日本放送協会 大阪放送局／日本放送協会 奈良放送局／びわ湖放送 株式会社／株式会社ベイ・コミュニケーションズ／株式会社毎日放送／読賣テレビ放送株式会社／JCOM株式会社

勉強会の様子

勉強会の内容

- ・防災気象情報に関する検討会の検討成果
- ・危険水位について
- ・流出予測の高度化について
- ・ダムからの情報発信について
- ・土砂災害について
- ・淀川水系(琵琶湖、日吉ダム、一庫ダム)の水位・貯水位
- ・「気候変動」と「気象庁が発表する情報」
- ・能登半島でのTEC-FORCEの活動について



大阪管区気象台の説明



近畿地方整備局の説明



TEC-FORCEの活動の紹介

おもな意見

○防災気象情報に関する検討会の検討成果

検討されている警戒レベル相当情報の体系整理について、特別警報や危険警報という名称は、どちらが危険な状況なのか分かりづらく、単純に数値のレベルだけで表現してもよいように思う。

○土砂災害について

土砂災害について、報道で土砂崩れというべきなのか、土石流というべきなのか判断に迷うことがあった。

○ダム管理者からの情報発信について

ダムが異常洪水時防災操作をおこなった場合のダム下流域の浸水想定区域図は作成してあるか。